

# 「2023 年秋の大会」企画セッション 見どころ

## 特別講演

1. [2F\_PL] 自動車技術の進展：自動化と電動化 (デンソー) 松ヶ谷 和冲  
(9月7日(木) 13:00 ~ 14:30, F会場) 座長 (名大) 吉橋 幸子

### 【見どころ】

本大会の開催地・愛知県は、自動車産業の盛んな地域です。そこで、現地委員会では、特別講演「自動車技術の進展：自動化と電動化」((株) DENSO・松ヶ谷氏)を企画しました。自動車において解決すべき課題として「安全性」、「環境負荷の低減」があり、これらは原子力業界にも共通するキーワードです。ご講演では、自動運転や電気自動車に関する最新技術について紹介していただきます。

## 合同セッション

1. [2A\_PL] 「核データ部会、材料部会[シグマ調査専門委員会共催]

材料損傷評価のための核データおよび材料照射研究への活用

(9月7日(木) 13:00 ~ 14:30 A会場) 座長 (北大) 橋本 直幸

- (1) PHITS と核データを用いた放射線損傷量の計算と検証実験 (JAEA) 岩元 洋介  
(2) 材料照射損傷モデリングによる照射場の定量化 (京大) 森下 和功  
(3) 試験研究炉を用いた材料照射環境の整備 (JAEA) 加治 芳行

### 【見どころ】

中性子等の放射線の照射によって原子力材料の機械的特性や耐食性等の材料特性が劣化することが知られている。これらの現象は中性子等の放射線の照射によって材料内に生じる照射損傷の量に応じて変化することから、シミュレーション、実験等による原子力材料の照射劣化の評価及び予測において、損傷量の高精度な評価が重要となる。本合同セッションでは、照射損傷評価の基礎となる核データおよび損傷断面積計算の最新の知見、また材料試験炉の照射環境における線量評価の実態や材料照射研究における線量の活用例等を紹介すると共に、核データに対する要望や問題点、材料の照射研究に関する今後の研究課題について議論する。

2. [2O\_PL] 原子力安全部会、保健物理・環境科学部会

保健物理の最新動向と原子力安全

(9月7日(木) 13:00 ~ 14:30 O会場) 座長 (名大) 山本 章夫

- (1) 原子力安全にかかる保健物理分野の動向 (東大) 飯本 武志  
(2) 教訓に学ぶ原子力防災と保健物理・環境科学 (JAEA) 嶋田 和真  
(3) 緊急時モニタリングに関する動向と論点 (JAEA) 橋本 周  
(4) 大気拡散モデルの進展と課題 (JAEA) 永井 晴康  
(5) 総合討論

### 【見どころ】

近年、保健物理分野において様々な研究知見が蓄積されてきている。原子力安全の観点からも、当該知見を精査し必要な視点を抽出・昇華させることも期待されている。当セッションでは、保健物理・環境科学部会の4人の専門家から、保健物理分野における国内外の最新動向を紹介頂き、それらの情報について原子力安全部会及び保健物理・環境科学部会の2部会が合同で検討・議論することで、原子力安全と保健物理にまたがる論点の整理を行っていく。

## 委員会セッション

### 1. [2D\_PL] 理事会

学会の情報発信力を高めるには

(9月7日(木) 13:00 ~ 14:30 D会場) 座長 (JAEA) 大井川 宏之

- |                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| (1) 情報発信特別小委員会によるアンケート結果報告 | (JAEA) 大井川 宏之   |
| (2) 広報情報委員会が進める情報発信活動      | (電中研) 稲田 文夫     |
| (3) 原子力安全部会が進める情報発信活動      | (マトリクス K) 近藤 寛子 |
| (4) 社会・環境部会が進める情報発信活動      | (関西大) 土田 昭司     |
| (5) 次世代情報発信 WG の活動         | (東京電機大) 寿楽 浩太   |
| (6) 外から見た学会の情報発信の課題        | (日経新聞) 滝 順一     |
| (7) 総合討論                   | 講演者全員           |

#### 【見どころ】

学会の各組織における情報発信活動の現状と課題についてのアンケート調査の結果、学会全体に係る情報発信を所掌する広報・情報委員会の活動、部会からの情報発信を活発に行っている良好事例、若手を中心とした YouTube での発信活動「あとみるチャンネル」の状況等について共有したうえで、マスコミの観点から、学会による情報発信がどのように見えているかを客観的に述べていただき、今後の情報発信活動の方向性について総合討論にて意見交換する。

### 2. [1L\_PL] 広報情報委員会

情報発信ツールの見直しについて

(9月6日(水) 13:00 ~ 14:30 L会場) 座長 (電中研) 稲田 文夫

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| (1) 情報発信の手段とその考え方   | (東芝 ESS) 岩城 智香子 |
| (2) ポジションステートメントの改革 | (元 JAEA) 山本 隆一  |
| (3) ホームページの改修       | (電中研) 佐賀井 美都    |

#### 【見どころ】

広報情報委員会は、本セッションで情報発信手段としてのポジションステートメントとホームページを取り上げ、改めて情報発信についての考え方や役割を示す。タイムリーでメッセージ性ある発信を目指して抜本的な改革に取り組んでいるポジションステートメントは、改革した主なポイントと関連規定、規約、細則、要領等の見直しについて説明する。また、現在進めているホームページの改修については、その進捗報告と2023年1月に実施したホームページに関するアンケートでのコメント(国際的な視野、ニーズ、操作性、コンテンツなど)を紹介し、会場の皆さまに、今後の課題も含め情報発信を強化するための意見を広くお聞きする。

### 3. [1D\_PL] 標準委員会

安全な長期運転に向けた標準化活動

(9月6日(水) 13:00 ~ 14:30 D会場) 座長 (名大) 山本 章夫

- |                                |               |
|--------------------------------|---------------|
| (1) 安全な長期運転の体系                 | (東大) 関村 直人    |
| (2) PLM 分科会の取組                 | (長岡技科大) 鈴木 雅秀 |
| (3) 保守管理規程/指針の次回改定に向けた検討状況について | (四国電力) 中川 和重  |
| (4) 長期運転体系検討タスクの取組             | (東大) 村上 健太    |
| (5) 総合討論                       | 講演者全員         |

#### 【見どころ】

長期運転に関する法と規制が変わろうとしている。標準委員会は、長年にわたり“高経年化対策実施基準”の改定を

通じて長期運転への対応をリードしてきたが、社会環境の変化を踏まえると、更に積極的な貢献が求められるか否かの分岐点に立っている。そこで、このセッションでは、長期運転に関係する標準類の策定者に加え、産業界や規制機関からも話題提供者を招き、安全な長期運転を支える標準体系の全体像を示すと共に、学会の長期運転への今後の貢献のための戦略を議論する。

#### 4. [3I\_PL] 倫理委員会

よりよい組織文化醸成のため ―心理的安全性について考える―

(9月8日(金) 13:00 ~ 14:30 I会場) 座長(東芝 ESS) 中野 智仁

- (1) 心理的安全性について ―倫理学の観点から― (南山大) 神崎 宣次
- (2) 総合討論

##### 【見どころ】

組織の風通しのよさが組織文化の醸成に必要不可欠であると考えられており、すなわち、率直に何でも言い合える「非難されない」という心理的安全性を有することが安全文化を醸成するために必要不可欠な組織文化のひとつです。

心理的安全性を持った組織とするために、心理的安全性が確保されていない組織はどのような状態に陥るのか、心理的安全性を確保するために、さまざまな立場の構成員がどのような言動をすべきか、心理的安全性について倫理学の観点から検討する。

#### 5. [3F\_PL] 福島第一原子力発電所廃炉検討委員会

1F 廃炉に貢献するロボット技術開発

(9月8日(金) 13:00 ~ 14:30 F会場) 座長(東大) 関村 直人

- (1) 燃料デブリ取り出しのための作業空間整備に用いる遠隔技術 (日立 GE) 清水 和也
- (2) 廃炉ロボットの遠隔操作支援システムの開発 (MHI) 橋本 達矢
- (3) 2号機使用済燃料プールからの燃料取り出し設備の概要 (東芝 ESS) 東倉 一郎
- (4) 原子炉建屋内の環境改善・干渉物撤去のための遠隔技術の開発 (IHI) 三上 祐矢

##### 【見どころ】

当委員会は、福島第一原子力発電所(1F)の廃炉に向けた多くの課題を抽出しその解決策案を提示するため、専門家間での議論の場を提供し技術論の深耕を図る一方で、1Fの現状、廃炉への道のり・課題を公正に分析し社会へ発信していく活動を継続している。本セッションでは、1F廃炉作業を進める上で必要不可欠な、ロボット・遠隔操作技術開発に焦点をあて、その開発状況と現場への適用状況を共有する。実際にロボット技術開発を行っている4社の技術者から講演を頂き、1F廃炉における、ロボット技術開発の方向性やニーズ、課題について議論する。

#### 6. [[3J\_PL] 福島特別プロジェクト[保健物理・環境科学部会共催]

ALPS 処理水海洋放出に関する経緯とその理解

(9月8日(金) 13:00 ~ 14:30 J会場) 座長(東大) 飯本 武志

- (1) ALPS 処理水の処分に関する経緯と取組について (工ネ庁) 山口 雄三
- (2) ALPS 処理水に係る海域環境モニタリングの取組について (環境省) 北村 武紀
- (3) ALPS 処理水海洋放出に関連した世論の状況 (福島特別 PJ) 藤田 玲子

##### 【見どころ】

本企画セッションは福島特別プロジェクト及び保健物理・環境科学部会の共催にて、今夏に海洋放出が予定されているALPS処理水について現状を会員間で情報共有する場として企画した。ALPS処理水の海洋放出に関する決定経緯、現状、将来の計画、環境モニタリング等について、資源エネルギー庁および環境省の担当者より解説頂く。また、福島特別プロジェクトより世論調査の結果を基に公衆の意識と懸念について共有し、国内外での議論や懸念に対応するための情報共有という学術団体としての対応を方向付ける場のひとつとする。

## 部会・連絡会セッション

### 1. [1M\_PL] 炉物理部会

5%超濃縮度ウランの臨界安全 ―革新炉燃料のサプライチェーン確立に向けて―

(9月6日(水) 13:00 ~ 14:30 M会場) 座長 (JAEA) 郡司 智

- (1) 5%超濃縮度ウラン燃料の役割・ニーズ (MHI) 加内 雅之
- (2) 臨界安全の観点で考慮すべきこと (JAEA) 外池 幸太郎
- (3) 5%超濃縮度ウラン燃料の供給に向けた動き (スタズビック・ジャパン) 山崎 正俊
- (4) 総合討論

#### 【見どころ】

新たな政策「GX 実現に向けた基本方針」に開発・建設が明記された次世代革新炉について、開発に向けた動きが活発になっている。次世代革新炉ではU-235濃縮度が5%を超えるウラン(5%超ウラン)を燃料とすることも検討されており、次世代革新炉の実証及び実用化のためには、5%超ウラン燃料の供給体制を新たに確立することの議論も望まれる。本セッションでは、次世代革新炉において5%超ウラン燃料に期待される役割を紹介し、臨界安全の観点から考慮すべき点を整理し、海外の動向(主に米国)について報告する。

### 2. [2L\_PL] 核融合工学部会

ITER 計画の現状 ―革新炉燃料のサプライチェーン確立に向けて―

(9月7日(木) 13:00 ~ 14:30 L会場) 座長 (阪大) 上田 良夫

- (1) ITER 計画の現状 (QST) 鈴木 哲
- (2) ITER TF コイル製作の完遂 (QST) 辺見 努
- (3) ITER 用ジャイロトロンの開発 (QST) 梶原 健
- (4) ITER ダイバータの製作 (QST) 江里 幸一郎

#### 【見どころ】

本セッションでは、日本が分担するITERの調達機器の中で、顕著な進展のあったトロイダル磁場(TF)コイル、ジャイロトロン及びダイバータについて報告する。ITERでは全体計画にコロナ影響等により遅延が生じているものの、日本の機器調達は着実に進展しつつあり、その中でも調達の最終盤を迎えたTFコイルとジャイロトロンや、今後調達が本格化する機器の一つであるダイバータ外側垂直ターゲット並びに他極の機器調達の状況についても概要を述べる。

### 3. [2I\_PL] 核燃料部会

優秀な人材を核燃料分野に集めるには? ―燃料を志す若手の方も是非ご参加ください―

(9月6日(水) 13:00 ~ 14:30 C会場) 座長 (東京都市大) 佐藤 勇

- (1) 大学における原子力/核燃料分野の教育 (福井大) 宇埜 正美
- (2) GX 実現に向けた核燃料技術の開発とDXによる開発の加速、そのために必要な人材 (JAEA) 加藤 正人
- (3) パネルディスカッション  
(京大)黒崎 健、(JAEA)影山 十三男、(東北大)佐藤 修彰、(JAEA)宮村 浩子

#### 【見どころ】

地球温暖化防止の観点から、原子力発電への期待も高まり、国内でも福島事故後の原子力発電所の再稼働数増加も見通され、次世代革新炉の開発や建設についても検討される状況になってきた。本企画セッションでは、このような機

運の高まりのもと、燃料分野の人材育成の状況把握と今後の展開について大学、研究施設、産業界のそれぞれの立場から意見交換し、今後の燃料分野の人材確保と、維持発展に役立てることを目的とする。また、若い研究者、技術者からの意見も求めたい。

#### 4. [2E\_PL] バックエンド部会

廃棄物管理のバリデーション・性能担保の考え方

(9月7日(木) 13:00 ~ 14:30 E会場) 座長 (Bechtel) 小畑 政道

- (1) 浅地中処分の性能の検証および妥当性確認の事例 (日本原燃) 小澤 孝
- (2) 中深度処分の規制基準の考え方 (規制庁) 青木 広臣
- (3) 長期間を対象とした高レベル廃棄物の管理 (NUMO) 梅木 博之
- (4) 原子炉の運転についての安全確保の考え方 (東大) 糸井 達哉
- (5) 意見交換・議論「長期の安全性確保に必要なバリデーション」 講演者全員

##### 【見どころ】

放射性廃棄物管理では、非常に長期間にわたる安全性を確保するための取り組みが、様々な立場でなされている。本セッションでは、浅地中処分・中深度処分・地層処分・原子炉運転について、安全性を確保するための考え方や取り組みなどを共有する。次にパネルディスカッションを通じて、原子炉の運転および廃棄物管理の安全性を担保するための各々の考え方と方法論について、コミュニケーションを通じて明確にしていくことの大切さ、また、放射性廃棄物管理の検討成果を規制側の視点でレビューするといった、廃棄物管理に関する規制側と事業者とのコミュニケーションの有用性について、認識を深める。

#### 5. [1G\_PL] 熱流動研究部会

気液二相流計測に於ける最先端技術

(9月6日(水) 13:00 ~ 14:30 G会場) 座長 (電通大) 大川 富雄

- (1) 中性子イメージングの高度化と熱流動研究への応用 (京大) 伊藤 大介
- (2) 気泡流関連現象に関する基礎的な検討 (JAEA) 孫 昊旻
- (3) 複雑流路内における多次元二相流計測技術の開発 (電中研) 植田 翔多
- (4) BWR 炉内流動向け気液二相流評価技術の開発 (日立) 古市 肇

##### 【見どころ】

混相流現象は、原子力プラントをはじめとする幅広い分野に関連し、沸騰や凝縮、溶融や凝固、化学反応を伴う流れなど様々な状態を伴う複雑な現象である。そのため、対象とする混相流現象に応じた計測技術を開発し、目視だけでは捉えられない物質移動を定量化することが重要である。本セッションでは原子力プラントの多様な流路体系に対する気液二相流に着目し、詳細な可視化や二相流パラメータ (ボイド率, 液膜厚さ等) の定量化に向けた最近の研究開発について取り上げる。大学、研究機関、メーカーの視点から研究事例を紹介して気液二相流研究の最先端を理解するとともに、今後のニーズや展望について議論・意見交換を行う。

#### 6. [2I\_PL] 放射線工学部会

核融合における中性子・中性粒子研究の現状

(9月7日(木) 13:00 ~ 14:30 I会場) 座長 (東京都市大) 河原林 順

- (1) ITER 中性子計測の設計・開発 (名大) 西谷 健夫
- (2) 大型ヘリカル装置における高エネルギーイオン閉じ込め研究のための中性粒子計測 (核融合研) 小川 国大
- (3) 核融合中性子源開発と中性子場評価の現状 (QST) 近藤 恵太郎

【見どころ】

核融合反応のエネルギー活用を目指し、プラズマ実験装置から ITER プロジェクトまで、これまで様々な研究開発が行われてきた。秋以降に JT-60SA の本格稼働が予定されると共に、2025 年ファーストプラズマを目指した ITER の建設が急ピッチで行われており、DEMO 炉から実用化へ進む段階となっている。ここで、核融合の放射線系の講演を特集企画することにより、中性子や中性粒子計測等の核融合計測系から、材料照射のための IFMIF の中性子場に関する最新の知見を議論し、今後の放射線工学としてこの分野の研究推進の一助とする。

7. [1I\_PL] 加速器・ビーム科学部会

加速器・量子ビームを用いたバイオ系研究の最先端

(9月6日(水) 13:00 ~ 14:30 I会場) 座長(産総研) 豊川 弘之

- (1) 電離放射線による DNA 損傷の特徴と修復について (QST) 赤松 憲  
—細胞にとってハイリスクな DNA 損傷とは?—
- (2) PHITS を用いた DNA 損傷計算 —マクロからミクロへの挑戦 (JAEA) 佐藤 達彦
- (3) パルスラジオリシス法による生体反応の研究 (阪大) 小林 一雄

【見どころ】

近年、粒子線治療や加速器 BNCT の普及が進み、加速器からの量子ビームを用いた放射線治療が身近なものとなってきている。

そのため、量子ビーム照射によって生体内の細胞・DNA で誘起される物理作用、生物的变化、化学反応素過程等を系統的に理解することの重要性が増しつつある。

そこで本企画セッションでは、加速器・量子ビームを用いたバイオ系研究において、実験およびシミュレーションの分野で最先端の研究を行っている 3 名の第一線の研究者にご講演頂く。

8. [3H\_PL] 社会・環境部会

原子力の哲学 —2022 年度社会・環境部会賞受賞記念講演—

(9月8日(金) 13:00 ~ 14:30 H会場) 座長(電中研) 桑垣 玲子

- (1) 原子力の哲学 (関西外大) 戸谷 洋志
- (2) 原子力(学会)と哲学 (関西大) 菅原 慎悦
- (3) パネル討論  
(東京電機大) 寿楽 浩太、(関西大) 土田 昭司、(JAEA) 佐田 務、  
(関西外大) 戸谷 洋志、(関西大) 菅原 慎悦

【見どころ】

哲学者である戸谷洋志氏の手になる「原子力の哲学」は、同氏による長年の哲学に関する知見をもとに、7 人の哲学者による原子力をめぐる彼らの思想を、原子力と人間との関わりについて新たな側面として整理し提示した著書である。それは原子力とともに生きる世界はどのようなもので、そうした世界に生きる人間はどのように存在しているのか、その根源を問うたものとなっている。

本セッションでは同氏のこのような論を紹介し、それをふまえた議論を行うことで、私たちあるいはもっと広くには今のこの社会なり文明なりが、原子力とどう向き合うべきかという視点を、原子力学会員あるいは原子力学会に示唆するための契機を提供することをめざす。

9. [2K\_PL] 原子力発電部会

福島第一原子力発電所の廃止措置の取り組み

(9月7日(木) 13:00 ~ 14:30 K会場) 座長(福井大) 石垣 将宏

- (1) 国際廃炉研究開発機構における研究開発の状況 (IRID) 奥住 直明

- (2) 福島第一原子力発電所廃炉作業の現状と今後の取り組み (東電 HD) 飯塚 直人  
 (3) 日本原子力研究開発機構における 1F 廃炉に向けた研究開発状況 (JAEA) 宮本 泰明

【見どころ】

福島第一の廃炉作業は前例のない困難な取り組みであり、国・東京電力・研究機関などが一体となって着実に取り組んでいる。本セッションでは東京電力および研究機関より現在の取り組みについて紹介する。IRID より最大の課題である溶融して冷えて固まった燃料デブリの取り出しに関連する技術開発の現状を紹介する。東京電力より廃炉・汚染水・処理水対策の現状と今後の課題について紹介する。JAEA より燃料デブリ、放射性廃棄物処理・処分、遠隔測定に関する研究開発成果を報告するとともに、公募事業として実施している英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業について紹介する。

10. [3G\_PL] 計算科学技術部会

量子コンピュータの最新動向と原子力工学分野での応用利用の可能性

(9月8日(金) 13:00 ~ 14:30 G会場) 座長(中京大) 鈴木 正昭

- (1) 量子コンピュータの基礎と最新動向 (東芝) 後藤 隼人  
 (2) 原子力と量子コンピューティング —イオントラップ型を例として— (東大) 長谷川 秀一  
 (3) 材料科学のための量子・古典ハイブリッドシミュレーション (東大) 佐藤 健

【見どころ】

近年、量子コンピュータの開発が飛躍的に進み、実用化に向けたアプリケーションの研究が盛んになってきている。量子コンピュータは“重ね合わせの原理”を利用して計算を実施することから、古典コンピュータでは高コストで実施困難であった解析への適用が期待されている。本セッションでは、量子コンピュータと基礎と最新動向を導入とし、原子力技術者が量子コンピュータ開発に携わる例や、アプリケーションとして第一原理計算に量子コンピュータを用いた研究を紹介し、今後の原子力分野での量子コンピュータの活用を考える。

11. [2H\_PL] 新型炉部会

溶融塩炉の国内外開発動向と基盤技術

(9月7日(木) 13:00 ~ 14:30 H会場) 座長(JAEA) 山野 秀将

- (1) 溶融塩炉の特徴、塩化物溶融塩高速炉の開発状況と研究開発課題 (BERD) 山脇 道夫  
 (2) トリウム溶融塩炉の開発状況と研究開発課題 (TTS) 阿蘇 伸生  
 (3) インドネシアにおける ThorCon 社のトリウム溶融塩炉導入計画の現状  
 (東京都大) Liem Peng Hong  
 (4) 水冷却トリウム炉の研究開発動向 (東京都大) 高木 直行

【見どころ】

「次世代革新炉」の開発が政府より表明されるなど、新型炉開発に関する多様な活動が活性化している。そのうち、液体燃料を用いる溶融塩炉は、第4世代炉フォーラムでは技術成熟度は低いと判断されているものの、諸外国では開発が活発になりつつある。わが国でもエネルギーの NEXIP の支援で基盤技術の研究開発が進められている。そこで、本セッションでは、溶融塩炉の国内外開発動向と関連する基盤技術について議論するため、溶融塩炉(トリウム炉も含む)の特徴及び国内外開発状況を紹介します。具体的には、塩化物溶融塩高速炉、フッ化物溶融塩炉、水冷却トリウム炉の開発状況と研究開発課題について報告し、幅広い専門家から構成される学会員から意見を頂きたい。

12. [1N\_PL] リスク部会[日本リスク学会共催]

化学物質と放射性物質に関するリスク評価・管理とリスクコミュニケーション

(9月6日(水) 13:00 ~ 14:30 N会場) 座長(原安進) 成宮 祥介

- (1) 災害・事故時における非常化学物質漏洩の影響予測と対策に関する課題

- (2) 原子力分野における事故時のサイト外リスク評価(Level 3 PRA) (産総研) 小野 恭子  
 (3) 非定常を想定した化学物質管理分野におけるリスクコミュニケーション (電中研) 津崎 昌東  
 (4) 討議 (北大) 竹田 宜人

(原安進) 成宮 祥介、(原安協)山口 彰、(産総研)小野 恭子、  
 (電中研)津崎 昌東、(北大)竹田 宜人

【見どころ】

原子力と他分野におけるリスク評価及びその活用に係わる技術の利用経験やそこから導き出される技術的な課題等を相互に共有する事は、各分野における関連技術の更なる発展に寄与すると考えられる。本企画セッションでは、次の講演を行う。

- ・災害・事故時における非定常化学物質漏洩の影響予測と対策に関する課題
- ・原子力分野における事故時のサイト外リスク評価(Level 3 PRA)
- ・非定常を想定した化学物質管理分野におけるリスクコミュニケーション)

更に、討論会にて原子力と化学分野における「火災の防止策・緩和策への活用」、「不確実性を含むリスク情報の活用」、「リスクコミュニケーションへの活用と課題」について議論を深める。

13. [1H\_PL] 海外情報連絡会

原子力機構における次世代革新炉の研究開発と国際連携

(9月6日(水) 13:00 ~ 14:30 H会場) 座長 (日揮グローバル) 星野 郁夫

- (1) 高速炉の研究開発と国際連携 (JAEA) 大野 修司  
 (2) 高温ガス炉の研究開発と国際連携 (JAEA) 橘 幸男

【見どころ】

脱炭素化に向けた世界的な動きを受け、カーボンフリーエネルギーとしての原子力の再評価が進み、世界各国で新型炉や SMR の開発及び政策的な支援が活発になっている。

我が国においても革新炉 WG や高速炉開発会議で今後の新型炉開発に向けた議論が行われ、GX 実行会議での政策決定により「次世代革新炉の開発・建設に取り組む、研究開発や人材育成、サプライチェーン維持・強化に対する支援を拡充する」とされた。

本セッションでは、日本原子力研究開発機構 (JAEA) の講師 2 名より、我が国の原子力政策を踏まえた上で、JAEA における次世代革新炉の研究開発の現状や将来展望についてご紹介頂き、今後の国際連携の在り方等について議論する。

14. [3B\_PL] 核不拡散・保障措置・核セキュリティ連絡会

国際コミュニティにおける核不拡散・保障措置の現状と将来の課題

(9月8日(金) 13:00 ~ 14:30 B会場) 座長 (京大) 宇根崎 博信

- (1) 戦略的競争下の核不拡散問題 (国問研) 戸崎 洋史  
 (2) New challenges to International Safeguards (IAEA 東京事務所) Michael Farnitano

**総合講演・報告**

1. [3E\_PL]

「原子力アゴラ」調査専門委員会 持続的な原子炉・核燃料サイクル検討・提言分科会  
 持続的な原子炉・核燃料サイクルに向けて今何を考えるべきか？

(9月8日(金) 13:00 ~ 14:30 E会場) 座長 (JAEA) 竹内 正行

- (1) 持続的な原子炉・核燃料サイクルに向けて今何を考えるべきか？ (東大) 斉藤 拓巳  
 (2) 高速炉開発会議・戦略ワーキンググループでの議論 (原電) 小竹 庄司



- (3) GX 実現に向けた基本方針と革新炉ワーキンググループの議論の紹介 (工ネ庁) 吉瀬 周作  
(4) 総合討論 (工ネ庁) 遠藤 量太、講演者全員、(原安協)山口 彰

【見どころ】

原子力アゴラ調査専門委員会「持続的な原子炉・核燃料サイクル検討・提言分科会」では、長期的かつ包括的な視点から、原子炉システムと核燃料サイクルの相互関係を踏まえ、持続的な原子力エネルギーの利用に資する研究開発ならびに原子力政策のあり方を議論している。本企画セッションでは、「持続的な原子炉・核燃料サイクルに向けて今何を考えるべきか?」と題して、分科会の活動、特に、政策提言報告書の骨子を紹介すると共に、関連するいくつかのワーキンググループでの取り組みの紹介、そして、会場を交えた総合討論を行う。

2. [3N\_PL] シグマ調査専門委員会[核データ部会共催]

「シグマ」調査専門委員会 2021、2022 年度活動報告

(9月8日(金) 13:00 ~ 14:30 N会場) 座長 (JAEA) 深堀 智生

- (1) 核データニーズの恒常的な把握 (九大) 執行 信寛  
(2) 核データ分野の人材育成 (東工大) 片淵 竜也  
(3) 核データにおけるロードマップ (JAEA) 中山 梓介  
(4) 「シグマ委員会」の今後の活動 (JAEA) 西尾 勝久

【見どころ】

「シグマ」調査専門委員会では、グローバルな動向を調査・注視しつつ、我が国の核データ活動に対する大所高所からの俯瞰的検討や広い分野の内外学術機関との連絡、情報交換や学際協力体制の構築を行い、我が国の核データ活動の更なる発展に資するため、最新知見に係る調査活動を行った。本報告では、主な調査活動結果のうち、核データに関する要求リストサイト、人材育成、ロードマップ作成について報告する。また、今後の活動に関して発表および議論する。

## ポスターセッション

1. 学生連絡会

- 9月6日(水) 14:10 ~ 15:10 セッション 1  
9月6日(水) 15:20 ~ 16:20 セッション 2  
9月6日(水) 16:30 ~ 17:30 セッション 3  
9月6日(水) 17:40 ~ 18:00 表彰式

【見どころ】

学生連絡会主催の学生ポスターセッションは、名古屋大学東山キャンパスにて対面開催をいたします。日本全国の学生が日頃取り組んでいる研究活動について報告をします。開催日は 9月6日(水)、時間は 14:10~17:30 です。皆様との活発な議論が学生の大きなモチベーションになりますので、お時間がございます際には是非お立ち寄りください。なお、発表者の発表タイトル・内容は 8月中旬にご案内予定ですので、HP(<http://www.aesj.or.jp/student/poster.html>)にてご確認をお願いいたします。

2. ダイバーシティ推進委員会

9月6日(水) 16:00 ~ 18:00

【見どころ】

ダイバーシティ推進委員会では、多様性を重視した研究・職場環境の充実や働き方について、所属や職種の枠を超えた情報交換のためのポスターセッションを継続的に実施しています。今回は「多様なキャリア (私の働き方)」をテーマに、

多岐にわたる内容のポスター掲示を予定しており、9月6日(16:00~17:00)でポスターセッションを行います。またポスターセッションの後には、「原子力業界×働き方」をテーマに意見交換会(17:00~18:00)を行います。秋の大会参加料をお支払いいただいた方は、どなたでも参加可能です。学生の皆様の参加もお待ちしております。